

## 東北大学環境報告書 2023 に対する評価

「環境報告書 2023」は、環境にかかわる東北大学の多岐にわたる活動内容について、体系的かつ網羅的にまとめられた報告書である。2023 年版もデータが適切に開示されて評価がなされており、事業所の報告義務を十分に果たしている。同時に、2022 年版に対する本評価委員会の意見内容がすべて反映され、改善がなされていることが確認できた。特に、様々な環境問題の課題解決に資する研究の紹介は、大学における当該領域の教育・研究の取組を具体的にイメージできて良い。さらに、環境関連の人材育成や研究の面からも活動状況がまとめられており、大学ならではの環境報告書となっているように感じた。

最後に、精緻なデータを入手し評価を行いながら、膨大な情報量を分かりやすくまとめられた環境報告書作成専門部会（2023 年度）のご努力に深く敬意を表す。今後、本報告書がさらに充実し、東北大学の環境マネジメントにさらに有効に活用されることを期待し、本委員会で出された主な意見を以下に列挙するので、参考にしていただければ幸いである。

- 1) カーボンニュートラルの実現に向けて、省エネルギーに加えて再生可能エネルギーの導入拡大への取組が重要である。本報告書において、再生可能エネルギーの導入については、12 頁の「太陽光発電による昼間電力の削減」の記載に留まっているため、具体的な発電量等の情報を提供することによって、一般の方や学外の関係者の方にも参考になると期待される。
- 2) 無理なく持続的に取り組める環境負荷低減策を行うことが重要であり、環境報告書の中でこうした取組を紹介することが社会全体の参考になると思われる。例えば、ゼロエミッションの実現等について、より具体的な取組事例が紹介されていると、さらに社会に対して訴求性の高い内容になると思われる。
- 3) 学生インタビューに加え、大学独自の学生の取組事例を紹介し、学生の環境関連の研究活動に関する内容を充実させ、未来に対して貢献しているところを発信した方が良いと思われる。

## 東北大学環境報告書評価委員会（2023 年度）

	所 属	職 名	氏 名
委員長	工学研究科	教 授	三ツ石 方也
委 員	環境科学研究科	准教授	小端 拓郎
委 員	流体科学研究所	教 授	徳増 崇
委 員	医学系研究科	教 授	大和田 祐二
委 員	法学研究科	教 授	江口 博行
委 員	理学研究科	准教授	本堂 毅
委 員	農学研究科	准教授	井元 智子
委 員	宮城県環境生活部 環境政策課	課 長	鈴木 智子
委 員	東北電力株式会社 グループ戦略部門 サステナビリティ推進ユニット	マネージャー	阿部 圭子